

TOTTORI RYOKUSUI DAYORI

とっとり 緑推だより

NO.34

2014.12発行

公益社団法人 鳥取県緑化推進委員会

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220番地鳥取県農林水産部森林・林業振興局内

TEL 0857-26-7416 FAX 0857-26-8192

E-mail:info@tottori-green.or.jp URL:<http://www.tottori-green.or.jp>

■会員の現況平成26年11月30日現在 ●正会員 97名 ●賛助会員 70名 ●特別会員 1名

副理事長就任あいさつ

里山資源の活用と森林資源の循環

鳥取県農林水産部森林・林業振興局長 垣田 修

近年、森のようちえんや森林セラピーなど、森林を活用した新たな取組や森に親しむライフスタイルが全国的に広がりを見せています。また、鳥取県では県民の皆さんにご負担いただく「森林環境保全税」による県民参加の森林体験活動や、「とっとり共生の森」として行われる企業による環境貢献活動などに加え、平成25年に本県で開催された「全国植樹祭」や「全国都市緑化フェア」、「エコツーリズム国際大会」などを契機に、県民の皆さまの森林・緑に対する意識が高まりつつあるのを感じます。

我が鳥取県を見渡せば、豊かな田畠や充実しつつある森林資源を背景に、食料・水・エネルギー資源が身近なところに存在しています。これらの資源を活かし、お金もなるべく地域で回して地域を豊かにしようとする取組、「里山資本主義」が脚光を浴びていますが、県でもこれまで当たり前のように恩恵を享受してきた里山資源にスポットライトを当て、新しいムーブメントを起こすことにより、地域を豊かにしていくこうとする取組を本年度スタートさせました。折しも、日本は「地方創生」に向けて動き出したところであります、豊富な里山資源を有する本県の未来に可能性を感じています。

また、平成24年7月から再生可能エネルギーの固定価格買取制度が始まりましたが、その対象となるエネルギーとして木質バイオマスが位置づけられており、その原料として、これまで未利用となっていた林地残材等の活用が期待されています。一方で、これまでの製材用の需要に応えつつ、合板用や発電などの新たな需要にも応えるため、木材の生産量を大きく増加させが必要となります。そこで、戦後に植林され既に伐期を迎えているスギなどの人工林を伐採し、再び植林して人工林を若返らせる取組を進めていくこうと考えています。これにより、木材生産量が増加するだけでなく、若齢から高齢までバランスのよい構成の森林となり、将来に渡って森林経営が可能となるとともに、二酸化炭素吸収能力が高い若齢木が増え、地球温暖化防止にも貢献します。

どうぞ、会員の皆さんには、周りの方々に様々な恩恵を与えてくれる森林や緑が、私たちの生活にとって大切なものです、その機能を持続的に發揮していくためには、みんなで守り育てる意識を持つことが必要だと伝えさせていただきたいと思います。それらを通して、県民の皆さん、企業、団体などのご理解とご支援をいただき、緑化活動を推進していきたいと考えていますので、今後とも緑化推進委員会の運営についてご協力をお願いします。



■平成26年度 緑の募金

募金運動期間

春期 平成26年3月25日（火）～5月31日（土）

秋期 平成26年9月1日（月）～10月31日（金）

皆様の温かいご協力、ありがとうございました。

「緑の募金」は森林の整備や緑化活動を支援し、きれいな水環境、災害の防止、きれいな空気、温暖化の防止など環境改善に役立っています。

森や緑を育てて、安全で住みよい故郷をつくり、次世代へ引き継いでいくため、一人でも多くの方に「緑の募金」への温かいご協力をお願いします。

平成26年度緑の募金の結果

街頭募金55万円、学校募金110万円、家庭募金1,580万円、企業募金18万円、職場募金341万円、その他募金63万円、合計2,167万円

となり、募金目標額に対し86.7%の実績を上げることが出来ました。

頂きました净財は外部有識者による「緑の募金等運営協議会」で審査等を経た上で、緑化事業の推進に大切に使わせていただき、皆様方の地域環境の改善等に役立たせていただきました。

ご協力いただいた県民の皆様、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



■誕生記念樹贈呈事業

お子様の誕生をお祝いするとともに、緑を育てる大切さを親と子どもに共有してもらうため、県内に居住している誕生1年以内の赤ちゃんを対象に「誕生記念樹贈呈事業」を実施しました。平成25年9月1日～平成26年8月31日生まれの赤ちゃんを対象に募集したところ、85名の応募がありました。

贈呈した記念樹は高さ80cm程度の「キンモクセイ」、高さ50cm程度の「コデマリ」、高さ80cm程度の「ハナミズキ」の3種類のうちの1種類で、段ボール箱に箱詰めし11月初旬に発送しました。



写真は記念樹を受け取られた赤ちゃんとお父さんです。
記念樹の贈呈を大変喜んでいただきました。



また、昨年贈呈したキンモクセイが「きれいに咲きました」と、米子の方よりお礼のハガキもいただきました。

お贈りした誕生記念樹がお子様の成長を見守り、緑の充実に役立つことを願っています。

■緑の少年団全国大会

平成26年7月23日（水）～25日（金）、岐阜県揖斐川町中央公民館を主会場に開かれた「第23回緑の少年団全国大会」に、湯梨浜町立羽合小学校みどりの少年団の三谷先生と、6年生児童2名が参加しました。全国の少年団の仲間との交流や、さまざまな野外活動など、有意義な3日間を過ごすことができたようです。

第23回緑の少年団全国（岐阜）大会に参加して

湯梨浜町立羽合小学校みどりの少年団 三 谷 畿

去る7月23日（水）～25日（金）の3日間、「清流の国」岐阜県揖斐川町中央公民館を主会場に開かれた「第23回緑の少年団全国大会」に、鳥取県の少年団を代表して、2名の児童と共に参加しました。

2011年の東日本大震災から開かれなかったこの大会ですが、4年ぶりに全国から36団体（150名）と岐阜県内の22団体（170名）の児童生徒と引率者が集まり、「手から手へ 豊かな緑で 僕らの未来」を大会テーマとして開催されました。

初日の開会式では、各県から集まった少年団のプラカードと団旗の入場から始まり、この大役も2人の児童はしっかりと果たしてくれました。地元少年団の開会挨拶の後、全国緑の少年団連盟会長、岐阜県知事、林野庁長官の挨拶がありました。各地での取り組みの優秀な少年団に対する表彰に続き、岐阜県の多良峡もみじ少年団が岐阜県内の少年団活動や岐阜の自然について発表を行いました。森林資源と清流の幸の豊かさを具体的に示してくれた発表でした。福島での現状についての特別報告もあり、鳥取から送られた苗木の様子も話されました。開会式集了後、8班に分かれての交流活動が始まり、宮城・滋賀・岡山・長崎・大分・宮崎・鹿児島・岐阜の少年団と一緒に、岐阜市歴史博物館見学に出発しました。博物館では、織田信長をはじめとした戦国時代の武将や庶民の暮らしについての展示が充実していて、当時の衣装を身にまとったりするなど、たくさん体験ができました。

2日目は、まず岐阜県立森林文化アカデミーの学園内案内と敷地内にある森林でのツリーカラーリング体験がありました。アカデミーは森林産業の後継者を育成する大学で、さまざまな施設のすばらしさに驚きました。ツリーカラーリングは、数本のロープを使い自分の力で木に登るスポーツで、近年各地で開催されているようです。鳥取県内でも豊かな森林を活用するこのスポーツを広めることで、林業振興の一助になると思いました。子ども達も初めての体験で、帰路の中でも話題にしていました。午後からは、美濃紙の紙漉き体験で自分の手作り和紙を見せ合い、森林散策体験でははじめて見る猪や鹿の骨にびっくりしていました。

最終日には、この3日間で学んできたことを班のメンバーと整理をして、閉会式での発表の準備をしました。自分たちの住む環境の違いを意識しながら、みんなで取り組めることや岐阜の子ども達の活動で参考になったことなどを話し合いながら、他の班へ伝えたいことをまとめることができ、閉会式で代表が発表を行いました。今回の全国大会参加は、子ども達にとって少年団活動が全国につながる活動であることを確かめることができたこと、自分たちの住む湯梨浜町の地での活動が自然を守るために大きなものであることを強く感じた大会であったようでした。ぜひ多くの少年団のある学校が、このような機会に参加されんことを願っています。

6年 米田沙亜良

私の岐阜県であった緑の少年団全国大会の思い出は、たくさんあります。

まず、1日目の岐阜県までの列車での移動です。私と瀬戸さんと三谷先生の3人は、お昼に倉吉駅からスーパーはくとに乗りました。鳥取から、県緑化推進委員会の堂園さんも一緒に、新大阪からは新幹線に乗り換えて、岐阜羽島まで行きました。列車に5時間近くも乗り、とてもくたびれましたが、初めての新幹線だったこともあり楽しかったです。岐阜のホテルに着いたのは、もう夜になっていました。ホテルのベットに寝るのも、初めてだったし、明日から



の3日間を考えると緊張して眠れませんでした。

2日目の朝ホテルを出発して、バスで会場に行きました。すぐに開会式の入場行進の練習があり、順番に写真を撮り、ステージの上で挨拶をする練習をしました。私たちの後に島根県の人が居て、すぐに仲良くなりました。開会式が始まり、上手に行進もできました。

昼食の後、岐阜市の歴史博物館に行きました。たくさんの中の展示物があり、社会科で習った織田信長や戦国時代の武将のことがよく分かりました。戦国時代の女の人の着物を着たり、木版刷りの体験などをしました。当時の食べ物や遊びのこともよく分かりました。その後泊まる旅館に行き、次の日の活動をする友達と交流しました。地元の岐阜や岡山、滋賀、宮城、大分、長崎、宮崎、鹿児島の人たちで、すぐにみんなと仲良くなりました。

3日目は、ツリークライミングをしました。1本のロープで高い木に登る体験でした。一番上には上がれなかつたけど、初めての体験で面白かったです。昼からは、和紙作りと森林散策がありました。和紙作りは結構

難しかつたけど、上手にすぐことができ、記念に持ち帰ることができました。森林散策では、いろいろな木や草の名前を教えてもらいました。触るとかぶれる草や木があることもわかりました。

4日目は、午前中に閉会式がありました。たくさんの班が交流している様子を写真で紹介してもらいました。私たちの班になった人たちともお別れなので、とても悲しかつたけど、「又いつか会おうね」といって別れました。

この4日間でたくさんの友だちもでき、いろいろな体験もできて本当によかったです。



6年瀬戸 風歌

私が、緑の少年団全国大会に参加し体験した中で思い出に残っていることが3つあります。

1つ目は、ツリークライミングです。同じバスで行ったグループの中で、又小さな班に分かれて挑戦しました。日本の中でこのツリークライミングができる所は少なく、実際にできると聞いてわくわくしていました。ロープで木の上まで登るのに、自分の手で体を少しづつ押し上げるのは大変でした。ロープを操るのにコツがいり、なかなか上に行きませんでしたが、一番上まで上がった人がいてすごいと思いました。私は、真ん中くらいまでしか登れませんでしたが、限られた時間の中でそれだけでも登れたので嬉しかつたです。

2つ目は、和紙作りでした。和紙は、どのようにして作るのかは知らなかったので、うまくいかず心配でした。教えてくれる人は簡単そうにやっていたけど、結構難しかつたです。紙に模様を入れることができますので、緑と黄緑の葉を紙の隅に入れました。和紙はすぐに乾燥して出来上がりました。自分の作った和紙を見たときは、すごく嬉しい気持ちになりました。和紙でしおりを作るコーナーもあって、3種類のしおりを作りました。絵は、ヨーヨーや金魚、ひまわりでした。お母さんへのお土産にしようと一生懸命作りました。お母さんに、とても喜んでもらえたのでよかったです。

3つ目は、森の探検でした。森林文化アカデミーの中にある森がありました。案内をしてくれた人は、森に住む鹿やいのししの骨を持っておられて、みんなに見せてくれました。いのししの骨は、自分の子供が森で見つけたそうです。鹿が木に泥をこすりつけた後やエビフライに似た木の実、とても大きな松ぼっくりなどがたくさんありました。今まで見たことのないものもたくさんあったので、勉強になりました。

参加するまでは、心配なこともたくさんあったけど、いろいろな県の人とも友だちになることができ、とても楽しい3日間でした。



■みどりの少年団交流集会

みどりの少年団交流集会は、子どもたちが森林の中での活動や相互交流を通じ、緑を守る大切さや健全な育成を目的として、毎年実施しております。

8月7日～8日の1泊2日で、大山町の県立大山青年の家において、倉吉市立北谷小学校、湯梨浜町立羽合小学校、琴浦町立八橋小学校、米子市立淀江小学校、米子市立箕蚊屋小学校、米子市立車尾小学校のみどりの少年団総勢57名の参加で実施しました。

初日は、緊張した様子の子どもたちも、同じ班のみんなと協力しながらウォークラリーを楽しんでいました。ウォークラリー終了後、班ごとに分かれてカレーを作りました。

2日目の下草刈り作業は小雨模様でしたが、みんなが大きな鎌に悪戦苦闘しながらも一生懸命作業をしてくれました。

大山青年の家の指導員の先生や引率の先生など多くの方々のご協力をいただき、予定していた日程をすべて滞りなく実施することができました。少年団のみんなも元気に活動し、交流を深めることができたと思います。

1日目 ウォークラリー・野外炊飯

2日目 下草刈り・ウッドクラフト



突然の豪雨



おいしいカレーができました



ウォークラリーの様子



とっとり花回廊いやしの森での下草刈り作業



ウッドクラフト



かわいらしい作品ができました



交流集会の感想を書きました



全員で記念撮影！楽しい思い出がたくさんできました

子どもたちの
感想

- ☆ウォークラリーで道に迷ったけど、みんなと一緒にだから心細くなかったし、楽しかったです。
- ☆カレー作りでは、みんなと力を合わせたので、とてもおいしいカレーができました。
- ☆下草刈りで、カマは初めて使ったからドキドキしました。でも、丁寧に教えてくださったのでたくさんのかずが刈れました。
- ☆ウッドクラフトでドングリなどに顔をかいたり、色をぬったりしてかわいい小物が作れてよかったです。
- ☆この2日間、みんなで協力すること、緑の大切さについて学びました。とても楽しかったです。

■平成26年度第1回臨時総会の開催

とき 平成26年9月12日（金）
ところ 白兎会館「らいちょうの間」

平成26年度第1回臨時総会を、正会員99名のうち71名（出席25名、委任状46名）の参加を得て開催しました。開会に先立ち、野田修理事長（鳥取県議会議長）の挨拶があり、議長を選出。議長に八頭中央森林組合代表理事組合長 前田幸己さんを選出し、議事録署名人に団体会員の鳥取日野森林組合代表理事組合長大江國夫さん、個人会員の山本紀彦さんを選任し、議事に入りました。

第1号議案「役員（理事）の補欠選任について」事務局より案が提出され、全員賛成で第1号議案は議案のとおり承認されました。続いて、報告事項として平成25年度森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の実施状況について報告。質疑応答に続いて、平成26年度春期募金状況について報告をし、臨時総会は閉会しました。

役員の皆様（平成26年9月12日現在）

役員	氏名	所属役職名	役員	氏名	所属役職名
理事長	野田修	鳥取県議会議長	理事	中村力男	鳥取県建設業協会常務理事
副理事長	垣田修	鳥取県農林水産部森林・林業振興局長	理事	藤原眞澄	鳥取県山林樹苗協同組合理事長
副理事長	森下洋一	鳥取県森林組合連合会代表理事長	理事	門脇憲彦	(株)新日本海新聞社取締役総務局長
理事	田中朝子	鳥取県連合婦人会会长	理事	前田八壽彦	鳥取県木材協同組合連合会会长
理事	浜橋正教	鳥取県市長会事務局長	常務理事	岡村通孝	(公社)鳥取県緑化推進委員会事務局長
理事	山本義紀	鳥取県町村会若桜町副町長	監事	田中静雄	鳥取県造園建設業協会会长
理事	藏増保則	鳥取県農業協同組合中央会専務理事	監事	大家繁博	鳥取県椎茸生産組合連合会会长
理事	本城浩	日本海テレビジョン放送(株) 執行役員編成営業局長			

■緑の募金贈呈式



株式会社イブキ小谷営業課長様より

8月20日株式会社イブキ社長伊吹直様より緑の募金を贈呈していただきました。イブキブランド鶴卵パックのラベルに「緑の募金」ロゴマークを付け、その売り上げの一部を「緑の募金」として寄付されたものです。ありがとうございました



■ボランティア活動支援事業を活用して

上小鴨地区青少年育成協議会 会長 竹原 晶子

次代を担う倉吉市上小鴨地域の児童や保護者等を対象に、森林や椎茸生産に関心を持っていただき、さらには地域の緑化活動への意識の高揚を図ることを目的として、緑の募金を活用し、しいたけの植菌活動とブルーベリーの植栽を行いました。

地域の椎茸栽培農家、JA鳥取中央しいたけ生産部、小学校（児童・保護者・教職員）と青少協の協働により、11月10日（月）に上小鴨小学校において実施しました。

午前中は椎茸栽培農家のご指導のもと、保護者有志とJA鳥取中央しいたけ生産部の協力をいただきながら、原木200本にドリルで穴を開ける作業を行い、次いで級外職員とともに児童のネームプレートを木口に打ち込み、開催準備を行いました。

午後、校長先生のお話から始まり、スタッフ紹介、作業についての説明等が行われ、児童は、1年と5年、2年と6年、3年と6年、4年生の4つのグループに分かれ、協力しながら植菌作業と運搬トラックへの積み込みを行いました。並行してJA鳥取中央と保護者有志により椎茸のバター焼きと椎茸スープが準備され、作業終了後に全員で試食し、しいたけのおいしさを皆で味わいました。試食後に、5、6年生は前庭でブルーベリーの植栽活動に移りました。ブルーベリーのお話と作業説明後に事前に、準備した穴に肥料と共に苗木を植えました。

椎茸原木は、地域内の森林で1年間寝かせてから校地内に移動を予定しています。ブルーベリーは1年後には実を付けるので、児童と共に成長を観察し、収穫を楽しめるものと期待しています。



■平成26年度中国・四国地区緑化功労者表彰

平成26年10月23日～24日、島根県松江市において、中国・四国地区緑化推進協議会総会が開催されました。

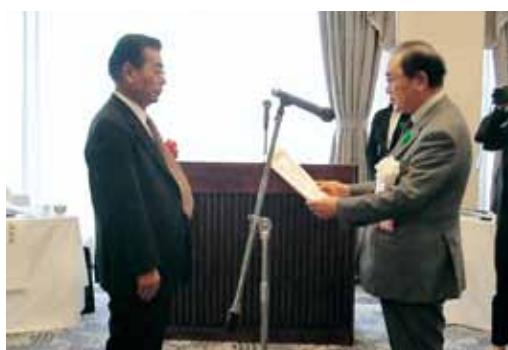
総会に先立ち、今年度の中国・四国地区緑化功労者の表彰式が行われました。中国・四国地区の各県より1人（1団体）を推薦し、鳥取県からは米子市の和田町マツ守り隊が表彰を受けました。

和田町マツ守り隊は、鳥取県西部の弓ヶ浜半島に広がる松林を、毎月2～3回のペースで、町民により自主的に草刈りをしたり、清掃をして守り続けています。

また、抵抗性クロマツの植栽も行っており、作業の際には町内に広く参加を呼びかけ毎年400人ほどの一般参加者とともに、1000本以上の植栽を行っています。また、地元の小学校に講師として招かれ、小学生たちに弓ヶ浜松林の成り立ちや、重要性などを紹介するなど、地元市民への意識啓発の活動も積極的に行っています。

表彰には、代表者の安達卓雄さんが出席され、中国・四国地区緑化推進協議会の山根常正会長（公益社団法人島根県緑化推進委員会会长）より表彰を受けました。

和田町マツ守り隊のみなさんのこれから活躍を期待するとともに、大切な弓ヶ浜の松林を後世に残せるよう大切に守っていただきたいと思います。



■学校環境緑化モデル事業完成式

ローソン緑の募金を活用して

子ども達に環境教育と憩いの場が完成しました。

11月28日、鳥取市立明治小学校（垣屋絹子校長）で学校環境緑化モデル事業の完成式が行われました。

学校環境緑化モデル事業は、(公社)国土緑化推進機構の「緑と水の森林ファンド」事業のうち、「ローソン緑の募金」部分を財源とした助成事業で、各県の緑化推進委員会を通じて全国60の小中学校に助成がなされるものです。

平成26年度として、県内では鳥取市立明治小学校が1校助成決定を受け事業に取り組みました。このほど事業が完成し、全校児童31人、教職員14名、株式会社ローソン関係者、鳥取市林務水産課担当者と鳥取県緑化推進委員会より岡村常務理事が出席し、完成式と記念植樹が行われました。

明治小学校は、里山に囲まれた小学校であり、学校内の緑化を推進するため、明治つ子ガーデンと名付けられた花壇に、季節折々の花や樹を植え、季節感を味わうことができる豊かな学校環境を整えました。季節の草花ゾーンには12種510ポットの草花を、季節の樹木ゾーンには高木3本、低木7種60本、シバザクラ300ポットが植えられました。

環境整備を行うことで、自然への興味関心が高まることが期待でき、憩いの場として地域の方々との交流も期待できます。また、環境教育・学習にも取り組んでおり、環境保全のための意欲増進を図るとともに、生活科の学習の場としても有効的な活用が期待できます。植えられた樹木や草花が毎朝児童を迎えてくれる、緑あふれる小学校となりました。



会員募集のお願い

公益社団法人鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様による「緑の募金」等を財源として、森林の整備や緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化に寄与することを目的として設立された公的団体です。

本委員会の組織運営は、緑の募金及び正会員（県、市町村、団体、個人）及び賛助会員（企業）の皆様からの会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解・ご協力の上に成り立っています。

趣旨にご賛同いただける皆様のご加入を心よりお願い申し上げます。

会員年会費：個人・団体・企業 一口 1万円

お問い合わせ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220
(鳥取県農林水産部森林・林業振興局内)
(公社)鳥取県緑化推進委員会
電話：0857-26-7416
FAX：0857-26-8192
URL：<http://www.tottori-green.or.jp>